

立命電友会

国一突破で、さらなるメジャー大へ

運輸省近畿運輸局 次長

豊田 栄次

(昭和四十四年卒)



学園紛争まっただ中に卒業し、上級職(現一種)国家公務員として運輸省に入って二十八年。当時も現在も、霞ヶ関や地方機関において、中級(二種)職としては数多くの卒業生の皆さんが活躍されておられますが、立命館の学風もあってか、少なくとも運輸省の上級職には先輩・後輩ともにお目にかからない中で、今日に至りました。

卒研は辻村先生に担当していた。だき「単相誘導電動機のテンソル解析」をやったはずですが、学園紛争のどさくさのため記憶に残る勉強はせず辻村先生とのコンパの回数をかせいで何とか卒業した、というのが正直なところです。

四回生の時に、敦賀の原子力発電所(二カ所)の見学会を企画しバスの手配や資料の作成などに汗を流し、参加者には好評でしたが一昨年の辻村研の同窓会で、先生から「在学中にボロ儲けしたヤツがいる」と冗談混じりに紹介されもうとつくに時効と思っていたのにまいました。剰余金を足しにして北海道旅行に行ったことは認めますが……。

四年連続で時代祭に参加したり、一応、ノンセクトラジカルに分類されながら、入試妨害の中、当局

側要員としてちゃっかりバイトしていたり、それなりに学生生活を楽しませていただきました。

当時はまだ団塊の世代の手前で学生は少なく、一方で景気は良く就職活動は比較的楽な状況でしたが、立命館がいわゆる「指定校」になつていないところも少なくありませんでした。私は、それまで採用実績のなかった某社に積極的にアプローチして内定をもらっていました。しかし、運輸省鉄道監督局(現鉄道局)で上級電気職の採用予定があると聞き、最初に受験して落ちた国鉄(現JR)を監督できるなら、と挑戦したところ、いろいろな幸運が重なって即日内定を受けることができました。せっかく新規開拓できた会社を蹴るのはけしからん、と大学事務局からクレームがついて辻村先生に某社へ謝罪に行つていただく羽目に、先生にはご迷惑をおかけしましたが、鉄道車両の電機品を製造している某社は監督官庁への内定ということもあって円満に解決。

最近でこそ立命館大学の名は全国区になっていますが、当時は「地方の一私学」にすぎず中央省庁への入省は至難のことでした。担当課長が内定を決めていただいたにも関わらず、人事課で「上位に東大出の良いのがいたのに」と露骨に言われたのが耳に残り、「あいつを採用してよかった」と

思われる仕事をしてやる、と心に決めて今日までがんばってきました。

運輸省は海運、鉄道、自動車、航空と交通運輸全般の行政を所掌し、海上保安庁、気象庁、海難審判庁などの外庁も持っています。上級技官は陸運(鉄道・自動車)船舶、港湾、航空の各部門別に採用され人事運用されます。私は陸運部門に所属し、これまで鉄道の技術、事故防止と自動車の検査・整備関係の職場のほか、環境庁に出向して交通公害対策の仕事も経験しました。何故か、行くところへ行くとところで法律改正や重大事故への対応などに追われてきましたが、国政レベルでなければ味わえない「行政という仕事のおもしろさ」も身に沁みて感じています。

現職には平成八年六月に就任しました。近畿運輸局は、昭和五十九年七月に、大阪陸運局と近畿海運局を統合してできた組織で、その経緯から旧海運局長の仕事は次長が担当しています。私にとつて大阪は生まれ故郷であり「文化的違和感」は微塵もありませんが、海運関係の仕事は生まれて初めて体験です。思いもしなかった故郷での勤務で、堺から南の大阪湾はどこでも海水浴のできた小・中学生のころを思うと、大阪の港の発展には目を見張るばかりです。

明石海峡大橋の開通に伴う航路再編や離職船員対策と、需給調整

規制の撤廃など規制緩和への対応が最近の仕事の中心です。

中央省庁の再編論議がここ数ヶ月、盛んに行われています。運輸省も例外ではなく「国土整備省」に組み込まれるのか、「交通通信省」に再編されるのか、まだ見えてきません。この原稿が掲載された会報が皆さんのお手元に届くころには一つの結論が出ていることでしょうが……。

立命館大学ではびわこ・くさつキャンパスへの展開に合わせて、エクステンションセンターの活動を強化し、その一環として国家公務員一種試験対策に力を入れておられます。私も二度ばかり在学生に体験などをお話し、また運輸省を支援される方にはできる限りの支援を心がけています。一昨年には技官(電気・電子)で航空局に一名採用され、来春には希望の事務官として国際関係学部から入省されることになっています。さらに多くの後輩が続かれることを期待しています。

電友会に参加しながら何ら貢献していない私に投稿の機会を与えていただいたことに改めて感謝いたしますとともに、立命館大学のさらなる発展と、電友会の隆盛をお祈りして拙稿を終わらせていただきます。

* * *

(会報の題字は久保之俊氏)

二〇代の思い出と同窓会の歩み

小 船 明 (昭和三十三年卒)

平成九年十月二十五日(土)卒業四〇周年を記念し、J R京都駅南口にある「新都ホテル」で同窓会を開催いたしました。

この場所の設定理由は、今年九月建都一二〇〇年を記念に建設オープンした、新J R京都駅が近く、参加者がこの建物を見学されるかと考慮し決定しました。

ご来賓に辻村先生・梶田先生・前田先生を迎え、三六名のクラスメートが集まり、懇親会が心置きなく賑やかにとり行なわれました。思えば早いもので、青春の希望に胸を膨らませ学園を後にし、社会人になり其々の企業に就職し、(昭和三十二年卒も三十一年同様大変な就職難であったと記憶している)現在の輝かしい日本産業発展の基盤造りに、我々の年代こそ人力を惜しまず、ただひたすら黙々と四〇年間働き、そして第二の人生である壮年の時代?を迎えている事を、集まった友の顔を見話を聞き、しみじみと感じさせられました。

私も、空気圧機器メーカーの草分

け的存在であった、西宮市に本社がある甲南電機KKに知人の紹介で入社しました。勿論技術部門に配属されるものと考えておりまし

たが、3ヶ月の工場実習後、営業部門強化の方針(東京の新営業所開設)で大阪営業所へ転勤内示が有り希望と異なるため、卒論指導の平野先生のお知恵を拝借に学校の門を叩きました。先生のご意見は、これから技術も生産も大きく変わる、生産会社の営業担当は顧客に対し技術な応答が出来なければ通用しない時代がきつとくる、新しい言葉でマーケティングエンジニアと呼ばれている、君もその分野で頑張ってみてはと、論じて頂き目から鱗の落ち、大きな希望が

じわじわと湧きだし、自信も持てるような気分になり、営業部門に赴任いたしました。

翌三十三年九月九州福岡に第三番目の営業所が開設され責任者として派遣され、当時の八幡製鉄KK(現新日本製鉄)戸畑製鉄所の圧延・転炉の建設に於いて、空気圧制御関連設備機器の海外製品か

ら国内製品に置換・機器の仕様決定・制御回路の設計等、メーカー側の人間としてお手伝いを致しました。特に、転炉の副原料投入装置に関しては、今村製作所(北九州市若松区)いまは亡き二階堂技術部長にご指導いただき、設計から試運転まで担当し、日本で最初の大型転炉建設に参加したと大きな満足

を味わいました。

その若松と戸畑は洞海湾を挟んで真向いにあり、この頃若戸大橋の建設最中で、秋には完成が予定されていましたが、完成を見ずにその夏大阪に帰りました。

四年近い九州勤務は、二〇歳後半の将に充実した活動状態に有り、色々な事柄を学ぶ機会を得る事が出来、マーケティングエンジニアとし、自分自身の人間形成に大きなポイントとなりました。その後も製鉄関連の仕事は、私の四〇年近い甲南電機勤務(平成九年九月退職)時代担当した顧客には何らかの関係がありました。

又、この時代に九州で遭遇し、活躍していたクラスメートは次の三君でした。

柴田考七(陸上自衛隊)・建川良一(九州電力)・山崎福二(九州火力建設)。

紙面をお借りし、二〇代の若き時代の思い出を長々と述べさせて

頂きましたのは、先に述べた通り、同窓会に集まったクラスメートの口々から聞かえる若き日の思い出は、その置かれた環境に如何に努力し、現在が有るかで有り、立命館で学んだ事も大切であるが、社会人として二〇代の自主性がさらに重要ではないかと考えます。

同窓会の歩みについて、ご案内します。

我々の同窓会は、今回で一回目を迎えました。五年毎に開催しておりますが、近年二、三年毎に短縮され、昨年今年とレンチャンで、来年もとの希望が出されております。直ぐに乗せられる性格です、各幹事を説得し来年も開催したいと考えております。

第一回は大阪で、誰かに声を掛けてくれ卒業後五年目で、大阪に帰ってきた秋でした。第二回から京都で、苅屋(立命館教授)、松井(ニチコン常任監査役)、澤田(パクスサワダ社長)君等と組織的に開催するようになり現在に至っております。

2回 10年目 つりいけす 衣笠の近く
3回 15年目 吉水庵 知恩院の近く
4回 20年目 かんぼーる京都 北山
5回 25年目

6回 30年目 嵐亭 嵐山
京都センチュリーホテル

7回 33年目 末川会館 衣笠
8回 35年目 37年目 瀬田川湖畔
あみ定 瀬田川湖畔
10回 39年目 瀬田川湖畔
11回 40年目 東山 坂口
新都ホテル

毎年秋(十月)に開催、八月に案内書を約一〇数名方に送っており、回答約八〇名、内参加される方が毎回三五、四五名、しかし三〇数名の方々から回答が無く、ご健康状態が思わしくないので、可否を気遣っておりますので、幹事に消息をお知らせください。

幹事: 苅屋公明・松井新三・小船明・澤田謙造・植村義彦・塩山一郎・松添保子・上林彦三郎・元村久次
8回・9回あみ定での会合は宿泊し、懇親を深める会話が夜の更けるのも忘れ続けられました。宿泊観光・宿泊ゴルフ・家族同伴等の希望があり、幹事と図り、12回は皆様のご希望に添うよう企画していきたいと思ひます。

立命館での学生生活

立命館大学大学院 理工学研究科 総合理工学専攻
 博士後期課程一回生 名西研究室 千葉 恭男

私は、現在博士後期課程に在籍する学生です。一九九二年の春、電気電子工学科に入学して以来、立命館大学とのつきあいが始まりました。一九九四年までの二年間は、京都の衣笠キャンパスに通っていました。理工学部はキャンパスの西側に位置しており、現在の政策科学部、及び産業社会学部のあるところで、当時は講義を受けていました。存心館、以学館などの名称とは違い、1号館、2号館といった単純な名称のついた建物での講義がメインだったと思います。今では、その名称も消えてしまったものもあります。例えば、4号館が洋洋館へ、6号館が恒心館、そして7号館が鯨友館へなどです。建物の改修も多く行われていますが、一回生時に物理学実験を行った7号館の実験室が食堂に変わっていることを、衣笠で知っている人はもはやいないのではないのでしょうか。変更された建物の名称も資料を見て初めてわかったぐらいですから。

一九九四年からは京都を離れ、

びわこ・くさつキャンパスに移転してきました。衣笠の建物の名称とは異なり、ここではほとんどの名称がカタカナになっており、多少の戸惑いを覚えたものです。もっとも、衣笠の建物の名称を覚えるのも抵抗がありました。「住めば都」とは良く言ったもので、草津での生活が長くなると、京都ほど便利とはいかないものの、とりあえず可もなく不可もなく生活ができるのです。草津の下宿は学生マンションがあたり前のようになり、私も今はそのうちの一人です。しかし、京都での二年間の下宿は、家賃一七、〇〇〇円の四畳半一間で過ごしており、今ではその頃が懐かしく思えます。もちろん風呂はなく、近くの銭湯に毎日通っていたものでした。商店街や教習所が目の前にあり、駅も近くだっだし、生活するには非常に便利なところでした。免許はその教習所で取りましたし、散髪屋が銭湯の隣にあったので行きつけの散髪屋になり、今でも草津からその散髪屋に通っています。

さて、入学早々から友人も多くでき、環境に恵まれて学部・院生と過ごしてきました。クラスで知り合った同級生、サークルを通して知り合った先輩ら、バンドのメンバーなど、たくさんの友人ができました。偶然にも、中学校で同じクラスだった友人とも学内で再会したりもしました。研究室に配属されるようになると、研究室内の先輩らとも仲良くなりました。これらの友人の多くは既に卒業し就職していますが、ときどきメールが来たり、直接研究室に足を運んで来てくれる方がおり、嬉しくなるものです。また、学会に参加するため空港に行ったときに偶然同級生に会ったり、学会会場で一年以上も行方知れずだった友人と会ったり、いとこまでも立命館にいたり、つくづく世間の狭さを痛感することもありました。こうした友人の中には連絡を取るようになってしまった人もいます。知り合った友人の多くは、これから長いつきあいになるのでないかと思えます。これからの人生の中で、最も重要な財産となる友人を大学生活で得ることができたと思っています。大学は学問の最高学府であるけれども、良き友人をつくる機会として最も適した場所であらうと思います。これを読んでいる低回生の方に、良き友人をつくることを強くお勧めします。

少しだけ、私の現在の研究について書かせていただきます。私は光工学科の名西教授の研究室に所属しており、プラズマ励起効果を利用したMBE法を用いて、III-V族窒化物半導体のGaN(窒化ガリウム)系結晶成長の研究を行っています。プラズマ中で生成したイオンやラジカルなどの励起種の種類と量を評価することは、結晶成長を理解し、高品質の結晶を得る上で重要です。成長中のプラズマからの発光を分析する方法により、これらの励起種の同定を行っています。作製した結晶を、光学的、電氣的、結晶学的に評価し、成長中の励起状態がこれらの特性にどのように影響するか検討を進めています。これらの材料系は現在、青色発光・耐環境デバイス材料として注目され、様々な分野で応用が期待されています。

学生・院生として研究活動を行うと同時に、一九九七年から学内において一号助手としても働いています。立命館大学に入学して以来、多くの先生方にお世話になり講義や実験指導を受けていたものでしたが、今ではその先生方と交じって講義補助及び実験指導をする立場になりました。そして、指導することの難しさを痛感することはもちろんのこと、そのみならず自分自身に対しても勉強させられる日々を送っています。

長かった学生生活も、二年余りを残すのみとなりました。博士後期課程を終えた後は、就職を予定しています。就職された多くの友人の方々ははじめ、多くの諸先輩方にお世話になると思いますが、その際はよろしくお願いいたします。

拙い文章になってしまったことをお詫びいたします。



第二十三回立電会総会開催 状況報告

立電会会長 足 立 宜 久

平成九年九月二十五日、第二十三回立電会総会が大阪駅近くの弥生会館で開催された。当日は、大卒からは辻村先生、浦山先生のご出席をはじめ、元会長の加納様もご多忙の中、出席され約四〇名が参加した。

総会は、足立会長の挨拶に始まり、事業報告として、昨年度の総会、親睦会、ゴルフ大会等の経過報告と会計報告等があり、滞りなく終了した。

引き続き、親睦会に入り、両先生より草津に移転した母校の近況や、先生方のご活躍等について伺ったり、久々の友人が日頃のご無沙汰をお互いに詫びながら、学生当時の懐かしい思いで話に花を咲かせ、過ぎし青春に思いを馳せ、終始笑い声が絶えず、若やいだ華やかな雰囲気包まれていた。反面、卒業年度別グループでの個人スピーチでは、年金の話や赤いチャンチャンの話、はたまた、定年退職の話が飛び出したり、最近の卒業生の立電会への入会者がなく、若い会員の入会を待っている、という話題にまで至った。

また、会のイベントとして、記

念品が全員に当たる抽選会が行われ、「当たった」、「まだ当たらない」と、終了までにぎやかだった。最後に、応援歌と校歌を全員で合唱し、大いに盛り上がり、又来年もお互いに元気で会おうと再会を約し閉会、約三時間の会であった。

衣笠三二会
同窓会報告

立命館大学電気工学科昭和三十一年卒の同窓会です。

十月十八日(出朝)、BKCに集合。BKCは自然に恵まれた広大な新キャンパスの広さに驚かされました。先ずコーラスセッションに全員集まって電子技術研究センター長の辻村先生から大学の現況と施設・設備の概要の説明を受け、続いて先生の案内で主たる施設の見学をしました。

実験室は近代的な建物で先進の情報機器やハイテク機器が完備されているのに感動しました。又、我々が実習した当時の機器が残っており思い出深いものがありました。続いてSR施設は全国の私立大

学で初めて設置されたシンクロトロン放射光源施設で光テクノロジーの研究に幅広い創造性をもたらすものと頼もしく思いました。

最後にBKCの建設に当り発掘された木瓜原遺跡の製鉄炉跡の地下保存施設を見学してBKCを後にしました。

午後は草津宿本陣を見学して、続いて本陣近くの『草津魚寅楼』にて平成九年度総会及び懇親会を開催しました。会員の出席は二十二名と辻村、前田両先生の計二十四名で、近江牛のすき焼きに舌鼓をうち和やかな雰囲気の中で終了



しました。

報告者 菊池

衣笠電気三六会
同窓会

秋深まる中、私たち同窓生は三年振りに十月二十六日同窓会を開催致しました。

びわこ・くさつキャンパスに集合し、浦山先生より母校の近況についてお話し頂き、又、最新技術の結果で有りますSRセンター(シンクロトロン放射光センター)やその他学内の見学(屋上より見るびわこの眺めはまた格別)をさせて頂き、私たち衣笠学舎で育った者にとつて、その発展ぶりに驚きと喜びを覚え、新しい息吹きを感じ取った次第であります。

その後、瀬田川畔にある料理旅館「船岩」で「あみ舟」に乗船し、懇親会を行いました。

辻村先生、前田先生もご参加頂き同伴者も含め総勢二十九人、舟の中は満席の盛況で湖面に映る夜景に見入りながら料理に舌鼓みを打ち、卒業後初めて会った友、久しぶりの昔話に花を咲かせ、また各人の近況についても発表し合って、新たな活躍等を聞く事が出来、有意義な時と成りました。



降舟後、二次会に移り、校歌やカラオケに熱中し、時間も忘れる程楽しくまた旧交を温めながら、一日を過ごす事が出来ました。還暦の時期に來ている私たち、何よりも健康管理第一であり、次回も全員元気な姿で参加すると共に、今回欠席の仲間も加え、より盛会にする事を申し合せ散会しました。

幹事一同(島貫、平井、小林、福井、廣瀬)

第二回70電友会

報告

一九七〇年卒電友会の第二回同窓の集いを開催しました。第一回の時に学友の皆様にお約束した「二年に一回程度」より約一年遅れての開催で申し訳ありませんでしたが、様子は次のとおりでした。

開催日時 平成九年六月二十一日(出)

一九時～二二時

場所

さと茂旅館宴会場(京都駅前)

出席

先生方 浦山隆様 荏屋公明様
辻村寛様 前田稔夫様
松田長生様 計五名

学友

近畿地区 大阪(六名) 京都(六名) 兵庫(二名) 和歌山(二名) 滋賀(三名)
その他 愛知(二名) 千葉(一名) 広島(一名) 岐阜(一名) 福岡(二名)

計二十五名

先生方では井上和夫先生が出席の予定でしたが、当日の総会行事の関係で急遽欠席となったほか、学友では一名の欠席を出しただけで総勢三〇名の同窓会と相成りました。近畿以外の学友はもとより、



兵庫・大阪南部・和歌山からは宿泊予定で上洛戴きましたが、会の進行につれ予定外(?)の宿泊に切り替えの学友も居られたようです。会の方は、先生方から立命館大学の現況や最近の学内の様子をお話いただき、その後お座敷効果も手伝い、入り交じつての宴席となりました。旅館側の好意もあつて時間も相当オーバーしての宴会も校歌斉唱・中締めの後、次第に二次会や夜食のラーメン行に分散し無事終了しましたが、夜を徹しての雑魚寝談話会もあったようです。

す。尚、今回は幹事以外の方にも種々ご教示、ご協力をいただき有難う御座いました。

今回、近畿以外の学友の参加が少なく幹事として、日程のセットや前広のご案内等で反省頻りですが、次回幹事を京都在住の山下君にお願ひすることになり、より多くの学友の顔が見られる事を今から楽しみにいたしております。

幹事(今井、奥田、大石)記

S四五三亀研 同窓会開催

十月十日体育の日、宝塚市の北方に位置する兵庫県川辺郡猪名川町の民宿(里の家)にて、恩師前田先生、辻村先生、杉本先生をお迎えして開催しました。一四時能勢電鉄日生中央駅に集合し、民宿の近くに関西電力の五〇〇KV猪名川変電所があり、皆で、変電所を見学させてもらった。

関西電力の五〇〇KV系主要幹線の一翼を担っている変電所であります。

本館の監視制御室を見学、所員の方に、変電所の概要説明とここに設置されている、コンピュータ操作の最新AI(変電所運転、保守支援)システムの説明を受け、屋外の五〇〇KV機器(一〇〇万

KVA変圧器、しゃ断器、変流器、計器用変圧器、避雷器等)をみて回り、久しぶりに、昔習った超高压電気設備の話に花が咲いた。それから、民宿に行き、秋の味覚の松茸のフルコースで舌鼓を打ちながら、昔の思い出や、近況を語り合い、和気あいあいの一夜を過ごし、次回元気で、会うことを誓い散会した。

富士田忠弘



同窓会開催の予告

辻村・前田研

同窓会開催について

毎年十二月第一週目の土、日に開催してまいりました研究室の同窓会は九七年度は実施を見送り半年後の九八年六月六日(出)、七日(日)に開催することを代表幹事会において決定いたしましたことをこの紙上をかりてお知らせいたします。今回、見送りとなりましたのはかねてから年末という事情で出席しがたい方々の意向を配慮してのことです。他方、前々から十二月の同窓会を予定しておられた方々には誠に申し訳なくお詫び申し上げます。

なお、同窓会の開催会場、開催時間等々については後日お知らせすることいたします。

会長 山下 正之



学 系 便 り

学系長 寺井 秀一

学系の名称が、「電気電子系」から「電気電子・光系」へ変わりました。なお、属する学科名称（電気電子工学科、光工学科）には変更がありません。

事務局便り

電友会会報第十号発行にあたり、ご寄稿戴きました会員の皆様にたいし、厚く御礼を申し上げます。

平成四年十一月に立命電友会が発足して以来、今年で五年が経過し、この間、会報を年に二回定期的に発行してまいりました。これも、偏に会員のご理解とご協力によるものと感謝いたしております。今後とも、会報の発行を継続するとともに内容の充実に一層の努力をいたしてまいりたいと考えております。どうか会員の積極的なご寄稿、ご進言等々を賜りますようお願い申し上げます。

なお、会員の住所等に変更がございましたらお手数ですが事務局までご連絡下さい。

立命電友会連絡先

〒五二五―八五七七

滋賀県草津市野路東一丁目の一

立命館大学理工学部電気電子・光系内

立命電友会事務局

電話 〇七七―五六―一―二六六二

FAX 〇七七―五六―一―二六六三

訃 報

長年、電気工学科、電気電子工学科の教学にご尽力戴いた森脇俊明先生（立命館大学名誉教授、立命電友会会員、体育講義、体育実技担当）が九七年七月に、岡本弘先生（立命館大学非常勤講師、発変電工学、送配電工学、設計製図担当）が九七年九月に逝去されました。両先生のご冥福をお祈りし、謹んで会員にお知らせいたします。

